

# 湊の受難



愛撫に悶える家庭訪問

## 愛撫に悶える家庭訪問

「湊先生は家庭訪問はじめてでしたな」

教頭に声をかけられ湊が頷く。

「わが校では家庭訪問は週末に行うことになっていまして、事前にメールで各ご家庭のお父様にお尋ねして、こちらの日程で回っていただくことになります」

差し出された用紙には五月から八月まで毎週土日に一軒ずつ訪問することが書かれていた。

「朝十時からですか」

「ええ。地図はメールで先生に送っていますので」

「はい。分かりました」

休みなしだなあと呟く湊対して俺はなんとなくだが察しがついた。  
楽しい家庭訪問になりそうだ。俺は湊の意識の中でほくそ笑んだ。

家庭訪問初日、湊が一軒目の家を訪れる。

「こんにちは。今年赴任しました門倉湊と申します」

家に向かうと父親と生徒に出迎えられる。

「あれ？お母さんは？」

「いやあ、嫁は旅行中でして」

「そうなんです」

リビングに通されソファ―に腰を下ろした湊の前に、生徒が冷たいお

茶を置いた。

「湊先生どうぞ」

「ありがとうございます。まず息子さんの日頃の様子ですが」

湊が説明し話を終えると教頭から指示の出ていた通り生徒の部屋に案内をしてもらう。

「そうだ、その前に先生にはこちらの部屋へ」

そう言い奥の部屋へ案内されると天井からぶら下がる鎖と大きな鏡のある部屋に湊が目を見開いた。

「え？」

戸惑う湊を父親と生徒が部屋に押し込むと湊の服を剥ぎ取る。

「待っ」

鎖に繋がれた湊の体を眺め、父親が目を細めた。

「湊先生、おっぱいがコリコリに勃起してますよ。いじめて欲しいんですね」

バシッ！

「ああんっ」

ムチが振るわれ乳首を打たれた湊が悶える。

「こんなに乳首を勃起させていじめられたかったんですね」

「違っ、これは」

「こんなにおっぱいを大きくして……いけない人だ」

父親が湊の乳首にしゃぶりつく。

ムチで打たれたばかりの敏感乳首を舌で転がされ、湊が悶える。ヒク

ヒクと震える湊の様子に生徒は背後にしゃがみ込むと、尻をつかみアナルに舌を押しこんだ。

チュバツ♡レロツ♡レロツ♡

乳首とアナルを舐められ湊の体を甘い痺れが走り、湊の体がビクつく。

「やんっ♡お尻、なめちゃだめえっ♡」

父親の唇から離れた乳首はヒクンと赤みを増し敏感に疼いている。

ムチで打たれたばかりのツンとしこる乳首を父親がチロチロ舐めまわし、“ふーっ”と息を吹きかけられるだけで痛痒い刺激が走り腰が跳ねる。

チュパツ♡レロオツ♡チュツパアアアツ♡♡ジュルルウウツ♡♡♡

デユウウー~~~~

「あああんっ♡おっぱい、お尻っ、どっちもはだめえ♡」

ムクムクと乳首は勃起し、尻穴が疼き始める。

「湊先生は本当に淫乱な体ですね」

父親がそう言うと言うと生徒に目配せをする。生徒は頷くと立ち上がりズボンのファスナーを下ろした。

ブルンっ♡ビキビキッ♡♡ビンツ！♡♡♡ 赤黒く巨大なペニスが見える。その大きさは成人男性のモノよりも大きく長いため、血管が浮き出ておりグロテスクだ。そして陰囊も大きく垂れ下がっているため金玉が重そうにブラブラと揺れている。

父親もズボンを脱ぐと、巨根生徒のペニスよりさらに太いペニスを